

報告・協議 4

県立義務教育諸学校で使用する教科用図書選定の進捗状況について

このことについて、別紙のとおり報告します。

平成30年 7 月13日

広島県教育委員会教育長 平 川 理 恵

## 別紙

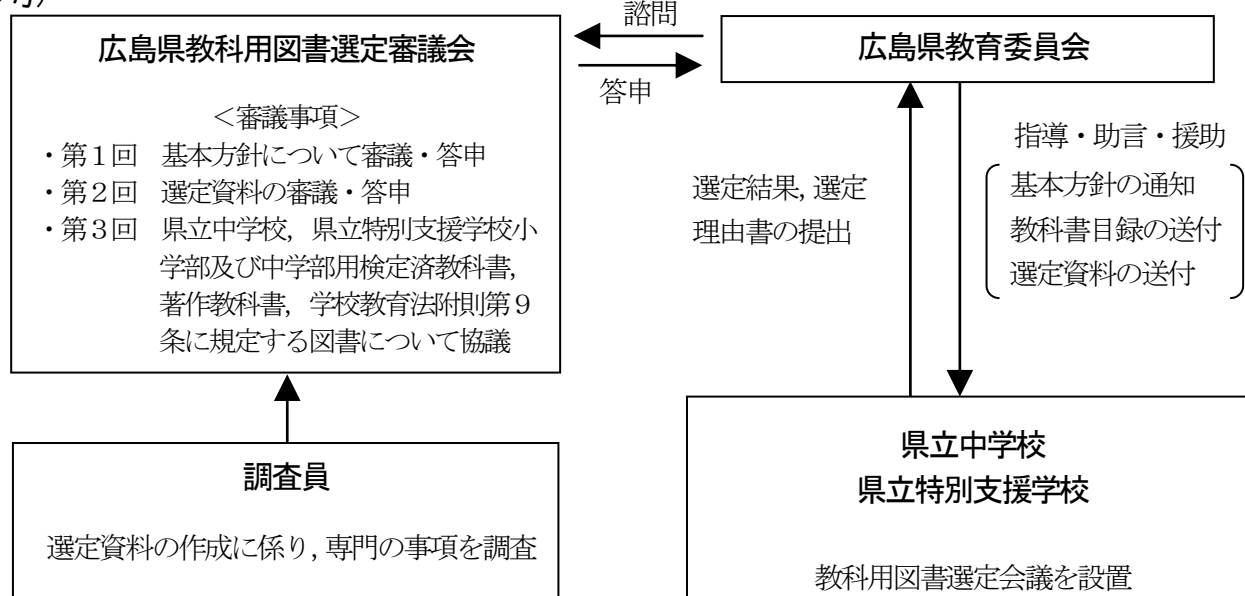
### 県立義務教育諸学校で使用する教科用図書選定の進捗状況について

- 1 県立中学校における平成31年度使用中学校用教科用図書
- 2 県立特別支援学校の小学部及び中学部における平成31年度使用教科用図書
- 3 県立特別支援学校における平成31年度使用学校教育法附則第9条の規定による教科用図書

## 県立義務教育諸学校の教科用図書採択スケジュールについて

期日	県教育委員会	教科用図書選定審議会	県立義務教育諸学校
4月23日(月)		<第1回> 「平成31年度に義務教育諸学校で使用する教科用図書の採択基本方針」について(審議・答申)	
4月27日(金)	「平成31年度に義務教育諸学校で使用する教科用図書に係る採択基本方針」について(決定)		
5月		調査委員会の開催(「選定資料」の作成)	教科書選定会議の設置
6月6日(水)		<第2回> 「選定資料」について(審議・答申)	
6月8日(金)	県立義務教育諸学校の教科用図書採択スケジュールについて(資料配付)		
6月中旬		採択権者へ「選定資料」を送付	選定資料に基づき調査研究
7月5日(木)			採択申請書及び選定理由書を提出
7月13日(金)	選定資料及び進捗状況について(報告)		
8月3日(金)		<第3回> 県立中学校用教科書, 県立特別支援学校小学部及び中学部用検定済教科書, 著作教科書, 学校教育法附則第9条に規定する図書について(協議)	
8月中旬	選定結果及び選定理由について(報告・協議)		
8月中旬～下旬	採択		
9月上旬	採択の結果(報告)		

(参考)



平成 31 年度に県立学校で使用する教科用図書  
の採択基本方針について

平成 30 年 4 月 27 日  
広島県教育委員会

1 採択基本方針

(1) 採択の基本

教科用図書は、学校教育において、教科の主たる教材として使用される重要なものであることを認識し、教育基本法や学校教育法の改正で明確に示された教育の理念や目標及び学習指導要領に示された各教科の目標や内容等に則り、本県の児童生徒に最も適切な教科用図書を採択する。

その際、各学校が選定し、申請した教科用図書について、文部科学省の示す一般的指導事項及び各学校の教育課程に照らして検討し、適正と認めたものを採択する。

(2) 適正かつ公正な採択の確保

ア 教科書発行者等による宣伝行為等に影響されることなく、採択権者の権限と責任において、採択における適正、公正を期すこと。

イ 特定の教科書発行者と関係を有する者が教科書採択に関与することがないようにすること。

(3) 開かれた採択の推進

ア 採択結果及び採択理由について、採択後、遅滞なく公表すること。

イ 次の事項について、採択後、遅滞なく公表するよう努めること。

(ア) 義務教育諸学校において使用する教科用図書の研究のために資料を作成したときは、その資料

(イ) 教育委員会の会議の議事録を作成したときは、その議事録

ウ その他開かれた採択を推進する観点から有用と思われる情報の公表について、検討すること。

2 選定上の留意事項

(1) 各学校は教科書選定会議等を設置し、県教育委員会が作成した選定資料を参考に十分な調査研究に基づいて選定するとともに、選定理由書を教育委員会に提出すること。

(2) 学校教育法附則第 9 条の規定による教科用図書については、教育目標の達成上、教科の主たる教材として適切なものを選定すること。

(3) 特別支援学校の小・中学部で使用する教科用図書のうち、学校教育法附則第 9 条の規定による教科用図書については、別紙 2 「平成 31 年度に義務教育諸学校で使用する教科用図書の採択基本方針について」の 2 (3) ア (イ) 及び (ウ) に準じて行うこと。

平成 31 年度に義務教育諸学校で使用する教科用図書の採択基本方針について

平成 30 年 4 月 27 日  
広島県教育委員会

1 採択基本方針

(1) 採択の基本

教科用図書は、学校教育において、教科の主たる教材として使用される重要なものであることを認識し、教育基本法や学校教育法の改正で明確に示された教育の理念や目標及び学習指導要領に示された各教科の目標や内容等に則り、本県の児童生徒に最も適切な教科用図書を採択すること。

また、学校教育法附則第 9 条の規定による教科用図書については、児童生徒の障害の状態及び発達段階に適合したものを採択すること。

その際、次の観点に基づいて、県教育委員会が作成する「選定資料」を活用して十分な調査研究を行うこと。

ア 小学校用教科用図書（「特別の教科 道徳」を除く）及び中学校用教科用図書（「特別の教科 道徳」）について

- (ア) 基礎・基本の定着
- (イ) 主体的に学習に取り組む工夫
- (ウ) 内容の構成・配列・分量
- (エ) 内容の表現・表記
- (オ) 言語活動の充実

イ 学校教育法附則第 9 条の規定による教科用図書について

- (ア) 内容の特徴・程度
- (イ) 内容の構成・配列・分量
- (ウ) 内容の表現・表記
- (エ) 印刷・製本の状態

(2) 適正かつ公正な採択の確保

ア 教科書発行者等による宣伝行為等に影響されることなく、採択権者の権限と責任において、採択における適正、公正を期すこと。

イ 特定の教科書発行者と関係を有する者が教科書採択に関与することがないようにすること。

(3) 開かれた採択の推進

ア 採択結果及び採択理由について、採択後、遅滞なく公表すること。

イ 次の事項について、採択後、遅滞なく公表するよう努めること。

(ア) 義務教育諸学校において使用する教科用図書の研究のために資料を作成したときは、その資料

(イ) 教育委員会及び採択地区協議会の会議の議事録を作成したときは、その議事録

ウ その他開かれた採択を推進する観点から有用と思われる情報の公表について、検討すること。

2 方法、組織及び手続き

市町教育委員会並びに国立及び私立の義務教育諸学校の校長は、県教育委員会の指導、助言又は援助を受け、次の方法、組織及び手続きによって、採択を行うこと。

(1) 小学校用教科用図書（「特別の教科 道徳」を除く）及び中学校用教科用図書（「特別の教科 道徳」）について

ア 小学校用教科用図書（「特別の教科 道徳」を除く）の採択は、文部科学省「小学校用教科書目録（平成 31 年度使用）」に登載されている教科書のうちから行う。また、中学校用教科用図書（「特別の教科 道徳」）の採択は、文部科学省「中学校用教科書目録（平成 31 年度使用）」に登載されている教科書のうちから行う。

なお、同一採択地区内の町教育委員会は、協議して同一の教科用図書を採択する。

イ 市町教育委員会は、採択に係りその責任を明確にするとともに、教育関係者のみならず保護者、地域住民に説明責任を果たすことができるよう、次のとおり、採択組織及び手続きを確立する。

(ア) 複数の町で構成されている採択地区においては、規約を定め、共同採択のための採択地区協議会を設置する。

また、各採択地区においては、選定委員会を設けるとともに調査員を置き、それぞれの責任を明確にし、その機能の充実を図る。

(イ) 採択地区協議会においては

- ・ 各町教育委員会の意向を踏まえ、採択に係る方針を明確に定める。
- ・ 採択地区協議会で選んだ教科用図書が町教育委員会で合意を得られない場合、再度、採択地区協議会で協議する。
- ・ 委員には教育委員を加える。
- ・ 今年度採択する教科用図書について審議し、採択した教科用図書については採択理由を明確にする。

(ウ) 選定委員会においては

- ・ 市町教育委員会、採択地区協議会が定めた方針に基づき、調査員に教科用図書を調査する観点等を示す。
- ・ 地域の特色を生かすとともに多様な意見が反映されるよう、委員には保護者や学識経験者を加える。
- ・ 今年度採択する教科用図書について審議し、その結果について理由を付し、市町教育委員会、採択地区協議会に答申する。

(エ) 調査員においては

- ・ 選定委員会から示された観点等に基づき、今年度採択する教科用図書について綿密な調査研究を行い、報告する。
- ・ その際、特定の教科用図書に絞り込むことなく、今年度採択する教科用図書の特徴について意見を付す。
- ・ 専門的な調査研究を行うことから、調査員は校長及び教員等とする。
- ・ 採択の公正を期すため、調査員は選定委員会の委員と重複しない。
- ・ 小学校用教科用図書（「特別の教科 道徳」を除く）については、4年間の使用実績を踏まえつつ、平成26年度採択における調査研究の内容等を活用するなど適切に採択を行う。

(2) 小学校用教科用図書（「特別の教科 道徳」）及び中学校用の教科用図書（「特別の教科 道徳」を除く）について  
原則、平成29年度と同一の教科用図書を採択しなければならない。

(3) 学校教育法附則第9条の規定による教科用図書について

ア 文部科学大臣の検定を経た下学年用教科用図書又は文部科学省著作教科用図書の採択を十分考慮した上、次の場合には学校教育法附則第9条の規定による教科用図書を採択する。

(ア) 小・中学校等の特別支援学級で特別の教育課程を編成する場合に検定済教科用図書を使用することが適当でない場合

(イ) 特別支援学校の小・中学部において、検定済教科用図書又は著作教科用図書の無い場合

(ウ) 特別支援学校の小・中学部において、重複障害を有する児童生徒について特別の教育課程を編成する場合に、検定済教科用図書又は著作教科用図書を使用することが適当でない場合

ただし、学校教育法附則第9条の規定による教科用図書は、原則、文部科学省の「平成31年度用一般図書一覧」に掲載された図書のうちから採択する。

イ 各学校は、教科書選定会議等を設置し、教科用図書を種目ごとに選定するとともに、選定理由書を採択権者に提出する。

### 教育方針・教育目標

<教育方針> 6年間の計画的・継続的な教育活動により幅広く深い教養と高い知性を培い、グローバル化時代において活躍することのできる人材を育成する。

<教育目標> 学習意欲を喚起し、基礎・基本の確実な定着を図るとともに国際感覚を培い、心豊かなたくましい人材を育成する。

### 校訓（育てたい生徒の資質や能力）

高い知性：確かな学力，科学的・論理的な思考力，的確な判断力，豊かな創造力・表現力

豊かな感性：他人を思いやる心などの豊かな人間性，社会性や規範意識，多文化を理解する態度

強い意志：困難を乗り越える精神力・体力，高い目的意識，責任ある行動力，自主的に学ぶ姿勢

選定資料を参考に十分な調査・研究を行う

### 教科書選定の観点

- 観点 1 基礎・基本の定着
- 観点 2 主体的に学習に取り組む工夫
- 観点 3 内容の構成・配列・分量
- 観点 4 内容の表現・表記
- 観点 5 言語活動の充実
- 観点 6 学校の特色を生かす工夫

グローバル化時代において活躍することのできる人材の育成に必要な視点を設定する

<視点>

- 1 科学的・論理的な思考力，的確な判断力を育てるための工夫
- 2 豊かな人間性や社会性を培い，我が国の文化とともに多文化を理解する態度を育てるための工夫
- 3 高い目的意識をもって，自ら学ぼうとする姿勢・意欲を育てるための工夫

視点ごとに評価し，総合的に判断する。

教育目標等

<教育目標及び育てたい生徒像>

「知」・「徳」・「体」・「志」・「美」の調和のとれた人格を形成し、地域から信頼され敬愛される学校

「知」 知性，探究心，創造性に溢れ，主体的に学ぶ人物

「徳」 人間の多様性を尊重し，真理と正義を愛する徳性の高い人物

「体」 心身ともに健康にして，忍耐力のある，逞しい人物

「志」 地球規模の視野で，他者と協働して人類の発展に貢献しようとする高い志をもつ，挑戦心溢れる人物

「美」 伝統ある本校の生徒であることに誇りをもち，美しい言葉・姿勢を備えた，情操豊かな人物

選定資料を参考に十分な調査・研究を行う

教科書選定の観点

観点 1 基礎・基本の定着

観点 2 主体的に学習に取り組む工夫

観点 3 内容の構成・配列・分量

観点 4 内容の表現・表記

観点 5 言語活動の充実

観点 6 学校の特色を生かす工夫

各教科の学習を通して「知」・「徳」・「体」・「志」・「美」の調和のとれた人格を形成するための視点を設定する

<視点>

- 1 知性，探究心，創造性，逞しさを育むための工夫
- 2 人間の多様性を尊重し，地球規模の視野で他者と協働する力を育てるための工夫
- 3 伝統を重んじるとともに，人類の発展に貢献しようとする高い志をもたせるための工夫

視点ごとに評価し，総合的に判断する。



平成 31 年度に県立広島叡智学園中学校で使用する中学校用教科用図書を選定について

教育目標等

【教育目標】社会の持続的な平和と発展に向け、世界中のどこにおいても、地域や世界の「より善い未来」を創造できるリーダーを育成する。

【重点的に育成する力】

知識・技能の深い理解  
やり抜く力・自信

創造的・批判的思考力  
高い語学力

協働する力

選定資料を参考に十分な調査・研究を行う

教科書選定の観点

- 観点 1 基礎・基本の定着
- 観点 2 主体的に学習に取り組む工夫
- 観点 3 内容の構成・配列・分量
- 観点 4 内容の表現・表記
- 観点 5 言語活動の充実
- 観点 6 学校の特色を生かす工夫

社会の持続的な平和と発展に向け、世界中のどこにおいても、地域や世界の「より善い未来」を創造できるリーダーの育成に必要な視点を設定する

<視点>

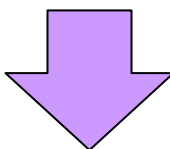
- 1 知識・技能の深い理解を促し、創造的・批判的思考力を育成するための工夫
- 2 社会の持続的な平和と発展に向け、異なる文化・価値観を尊重しながら協働する力を育成するための工夫

視点ごとに評価し、総合的に判断する。

県立特別支援学校における平成31年度使用中学校用教科用図書の研究調査

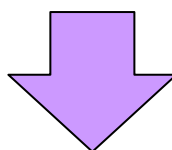
障害種別の生徒の実態

障害種	視覚障害	聴覚障害	肢体不自由	病弱
生徒の実態	<ul style="list-style-type: none"> <li>・視力、視野、まぶしさ等、視機能に障害があるため、細部を捉えたり、図などの全体像を捉えたりすることに困難がある。</li> <li>・大型の視覚教材の認知、器具・道具等の使用や観察、採集、実験、計測・計量等の学習が困難であるため、学習環境の整備、視覚情報の聴覚情報化、教材・教具の工夫、視覚補助具等の指導等の配慮・工夫が必要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・聴覚障害のため、聴覚を通じた情報の獲得やコミュニケーションの成立に困難がある。</li> <li>・音声情報の不足のため、言語習得や言語概念の形成等に困難があり、言語の指導に配慮・工夫が必要である。</li> <li>・学習において、視覚情報による情報補完が有効である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・上肢、下肢又は体幹の運動・動作の障害のため、起立、歩行、書写、食事、衣服の着脱等、日常生活の運動・動作に困難がある。</li> <li>・随伴する障害として、言語障害、視覚障害、聴覚障害等がみられることがある。</li> <li>・移動に困難があるため、生活経験が不足している生徒も多く、指導上の配慮・工夫が必要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・病気が長期にわたっており、その間継続して医療又は生活規制が必要である。</li> <li>・原因となる疾患は、心身症、神経疾患、悪性新生物、呼吸器疾患等多岐にわたっている。</li> <li>・随伴する障害として、肢体不自由、言語障害等がみられることがある。</li> <li>・入院のため、生活経験が不足している生徒も多く、指導上の配慮・工夫が必要である。</li> </ul>



教科書選定の観点

障害種	視覚障害	聴覚障害	肢体不自由	病弱
教科書選定の観点	<p>原則として点字教科書のもととなる検定済教科書を選定する。また、点字教科書が発行されていない種目については、文字の大きさ等が見やすいものであること、具体的な活動や体験不足を補う活動・内容が提示されていることなど、視覚に障害がある生徒の教育に必要な配慮がされていること。</p>	<p>視覚資料が効果的に組織、配列されていること、視覚資料と関連した解説等が分かりやすく提示されていることなど、聴覚に障害がある生徒の教育に必要な配慮がされていること。</p>	<p>教科書の大きさ等が扱いやすく、見やすいものであること、具体的な活動や体験不足を補う活動・内容が提示されていることなど、肢体不自由の生徒の教育に必要な配慮がされていること。</p>	<p>病院や学校という限られた環境での学習であることから、情報機器の活用、指導内容の精選など、病弱の生徒の教育に必要な配慮がされていること。</p>



調査研究の観点

選定資料を参考に十分な調査研究を行う

種目別の調査研究の観点	障害種別の調査研究の観点
観点1 基礎・基本の定着	観点1 障害のある生徒が興味・関心等をもって取り組むことができる内容等
観点2 主体的に学習に取り組む工夫	観点2 障害への配慮を要する内容等
観点3 内容の構成・配列・分量	観点3 表記・表現及び使用上の便宜
観点4 内容の表現・表記	
観点5 言語活動の充実	